

平成 26 年度 東京都内湾水生生物調査 8 月稚魚調査 速報

●実施状況

平成 26 年 8 月 26 日に稚魚調査を実施した。天気は曇りで、気温 26.2～26.8℃、風は弱く海は静穏であった。調査当日は大潮で、干潮が 11 時 30 分、23 時 45 分、満潮は 5 時 02 分、17 時 41 分であった(東京都港湾局のデータ)。

4 月、5 月に多かったボラは採取されなかったものの、各地点で多くの種類の幼稚魚が確認された。また、葛西人工渚では大量のニホンイサザアミが採取された。

2014/8/26	城南大橋	お台場海浜公園	葛西人工渚
作業時刻	10:35-11:33	9:12-10:14	12:16-14:09
水温(℃)	26.7	26.8	26.2
塩分	17.2	20.2	16.0
透視度	23	76	53
DO(mg/L)	5.8	5.9	5.3
DO飽和度(%)	81.2	82.4	71.9
波浪(m)	0.1	0.1	0.1
pH	7.5	8.0	7.9
水の臭気	下水臭	無臭	無臭
備考	水はやや濁っていた。 調査場所周辺では、下水の臭いがした。	観光客は 30 名程度で、潮干狩り客はいなかった。 波打ち際より少し沖側で、ボラの群れを目視で確認した。	波打ち際付近では、死亡または衰弱したハマグリを数個体確認した。 調査場所周辺では、アカエイが確認された(網には入らなかった)。

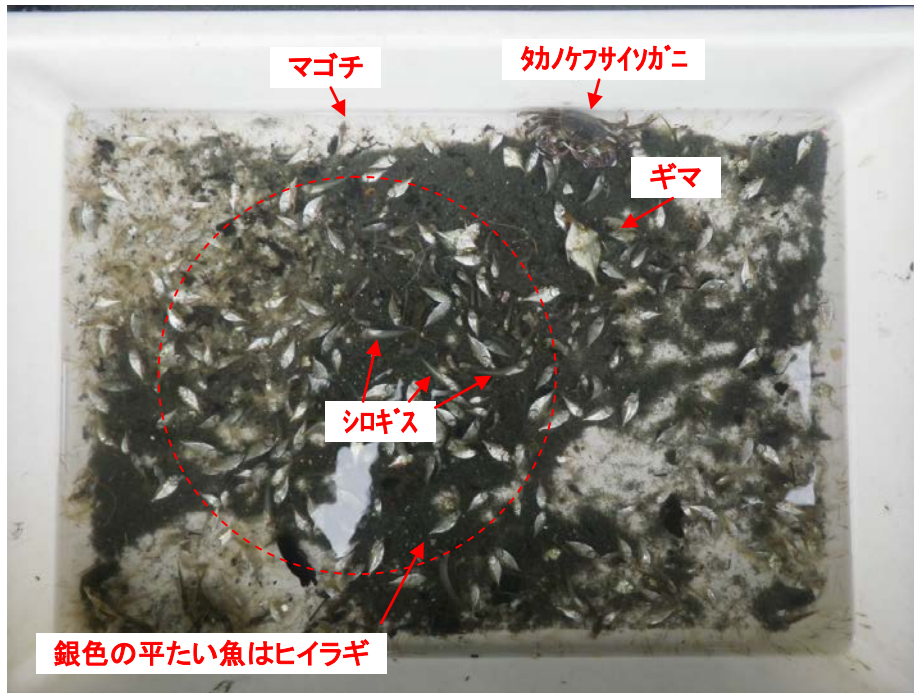
●主な出現種等 (速報のため、種名などは未確定)

主な出現種等	城南大橋	お台場海浜公園	葛西人工渚
魚種 (多い順 ^{注)})	ヒイラギ(m)	ビリンゴ(c)	ハゼ科(G)
	シロギス(c)	コノシロ(r)	サツパ(c)
	カタクチイワシ(c)	ヒイラギ(r)	シログチ(+)
	マゴチ(+)	マハゼ(r)	コトヒキ(+)
	ギマ(r)	ヒメハゼ(r)	ギマ(+)
魚類以外	ニホンイサザアミ(m) アキアミ(+)	ニホンイサザアミ(c) ユビナガホンヤドカリ(r)	ニホンイサザアミ(G) シラタエビ(c)
備考	他にコショウダイ、ハゼ科、タカノケフサイソガ二等が採取された。	他にマゴチ、シロギス、ハゼ科等が採取された。	他にコショウダイ、エビジャコ属、シオフキガイ等が採取された。

注)表中の()内の記号はだまかな個体数を表す。

G:1000 個体以上、m:100～1000 個体未満、c:20～100 個体未満、+:5～20 個体未満、r:5 個体未満

城南大橋 採取試料



城南大橋西詰めにある干潟。
近くには東京港野鳥公園がある。

●主な出現種等



東京湾では、湾全域の干潟域や砂浜海岸、漁港などで普通にみられる。干潟域や人工海浜でみられる稚魚は、動物プランクトンを食べて成長し、10月には3~4cm程になる。



東京湾では、湾中央から外湾にかけての砂浜海岸などで多くみられる。砂浜海岸に来遊した仔魚は、動物プランクトンやアミ類などを食べて成長する。釣魚として人気があり、刺身、天ぷらなどで賞味される。



東京湾全域の表層域で最も優占する魚種である。仔稚魚はほぼ周年にわたって出現するが、3~10月に多く、盛期は5~7月である。仔魚はシラス干しなどで食される。

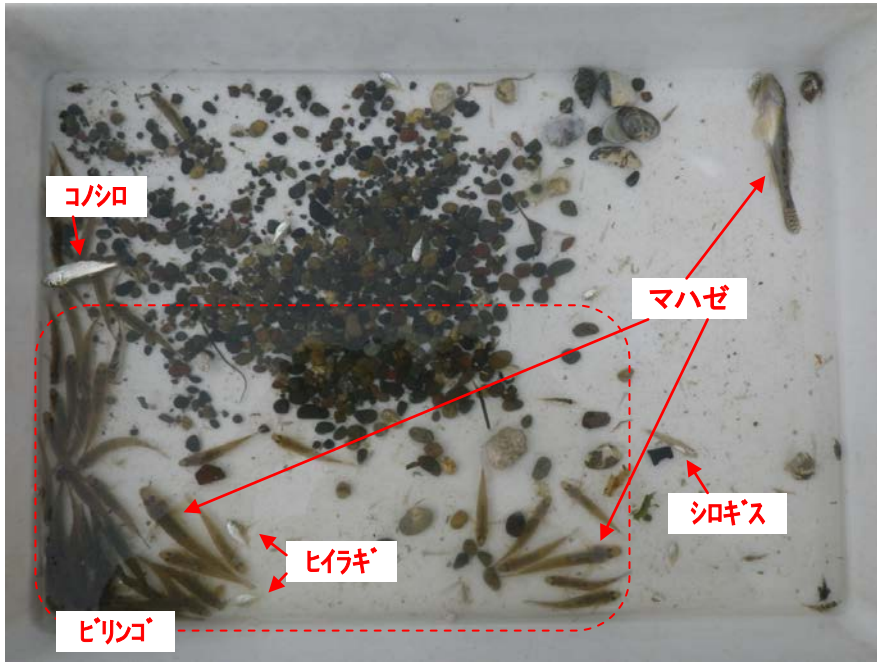


内湾や河口域の水深 30m 以浅の砂泥底に生息する。干潟域や人工海浜、砂浜海岸などの浅所では1~6cm程の稚魚がみられるが、成長するにつれて徐々に深い場所へと移動する。



サクラエビの仲間である。体長は4cm程度で触角が赤い。東京湾ではあまり利用されないが、新潟県では「あかひげ」とよばれ、かき揚げや佃煮などで賞味されている。

お台場海浜公園 採取試料



レインボーブリッジの袂にある人工の渚。背後には、東京臨海副都心の高層ビル群がみえる。

●主な出現種等



お台場では、過去のデータからも最も多く見られる種である。河川下流域から河口域におもに生息し、早春にアナジャコ等の甲殻類の巣穴に産卵する。中層を群れで泳ぎ、動物プランクトン等を食べている。



東京湾を代表する魚のひとつで、内湾や河口域に生息する。産卵期は春から初夏で、ふ化した仔魚は内湾の干潟域などの浅所でもみられる。干潟域には体長 20mm 程になるまで滞在する(写真は体長 20mm 程度)。



東京湾を代表する魚のひとつ。干潟域に着底した稚魚は、初夏から秋にかけてゴカイや甲殻類を食べて成長し、徐々に深所へと移動する。



内湾の河口域の干潟域の砂底や砂泥底に生息する。体の模様は砂の色にそっくりである。

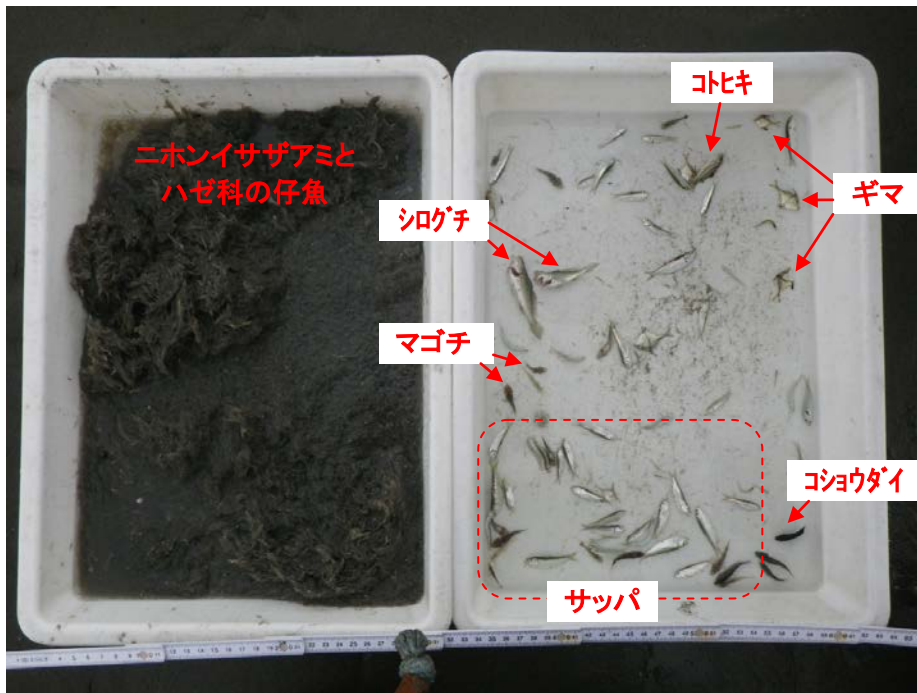


東京湾で最も普通にみられるヨウジウオ科魚類であり、湾奥よりも湾口から外湾で多くみられる。全長 30cm 程度になるが、調査で捕獲された個体は全長 7cm 程度のつまようじサイズであった。



東京湾の干潟では、普通にみられるヤドカリである。

葛西人工渚 採取試料



東京湾奥にある広大な人工干潟。一般の立ち入りは禁止されており、野鳥の楽園となっている。



波打ち際付近では、死亡または衰弱したハマグリを数個体確認した。

●主な出現種等



ニホンイサザアミとハゼ科の仔魚が大量に捕獲された。
ニホンイサザアミは、汽水域に生息するアミの仲間(エビの仲間でない)で、魚類等の餌となり、食物連鎖において植物プランクトン等生産者のエネルギーを上位の消費者に渡す重要な役割を果たす。



稚魚は干潟域や砂浜海岸、漁港などの岸近くに生息する。
うきぶくろを使ってぐうぐうという音を出し、これがことひき(琴引)の由来となっている。



東京湾では、内湾を中心に湾全域に生息する。
干潟域などの浅所では、体長 30mm 程度までの個体がみられる(写真は体長 30mm 程度)。
コノシロに似るが、東京湾ではほとんど利用されていない。



1995 年頃から東京湾の各地で確認が相次いだ。
干潟域などの浅所に、夏から秋にかけて全長 1~5cm 程度の仔稚魚が出現する。



東京湾では、湾奥から外湾にかけての干潟域などの浅所で、夏から秋に体長 15~50mm の個体がみられる。
東京湾では、イシモチとよばれ、底曳網などで漁獲されている。



湾奥から外湾にかけての干潟域などの浅所で、夏から秋に体長 3~10cm 程度の個体がみられる。
尾鰭以外は褐色で、枯葉に擬態していると考えられている。